

[2] 東諸県郡小体連（学校数5校 児童数1201人）

【研究部のあゆみ】

1 研究主題・副題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、
それを継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～ 表現運動における運動への意欲を高める活動を通して ～

2 研究の背景と目的

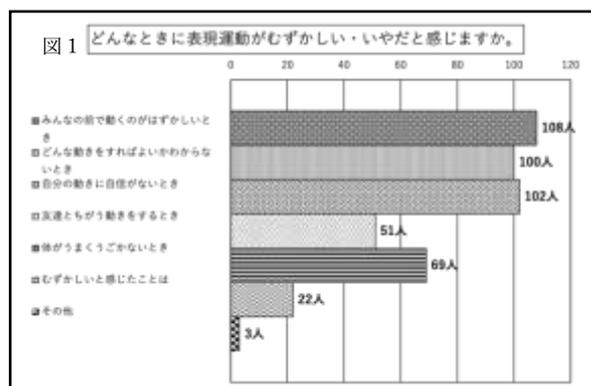
現代の学校体育において、児童の体力向上や運動習慣の確立は喫緊の課題であり、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成が求められている。特に、表現運動領域は、自己表現や集団の中での創造性育成という重要な役割を担う一方で、児童の間に「恥ずかしさ」や「苦手意識」といった心理的な障壁が存在しやすい領域である。

本研究は、この課題を克服するため、東諸県郡小学校スポーツ交流会の一斉活動を実践の場とし、集団的かつ段階的な表現活動を導入した。その活動を通じて、児童の表現運動への意欲向上と心理的障壁の軽減に対する効果を検証し、次年度のスポーツ交流会運営の改善および研究主題の深化に資する実践的指導法を確立することを目的とする。

3 研究の実際と方法

(1) 事前アンケートによる実態把握

・ 事前アンケートとして、対象児童に対し「体育の授業についてのアンケート（6年生）」を実施し、実態を把握した。結果、表現運動を「とてもすき・まあまあすき」と回答した児童は54%であったが、その内、表現運動では「みんなの前で動くのがはずかしいとき」に苦手意識を感じると回答した児童は192人中108人（56.3%）（図1）と半分以上もあり、高い意欲と心理的抵抗感の並存が確認された。



(2) 実践内容

① 指導者研修

6年生担任を対象に、体育振興指導員による表現運動の実技研修を実施し、実践の核となる指導法と狙いについて共通理解を図った。

② 交流会における活動の構成

【実技研修の様子】⇒



- ・ 進化じゃんけん：活動の最初から緊張をほぐし、体を動かすことへの抵抗感を減らすことを狙いとした。
- ・ マイムマイム：「みんなでやれば恥ずかしくない」という意識を育て、心理的な壁を乗り越える機会とした。
- ・ 創作と発表：「ひむかカード」を活用し、オリンピックをテーマとした創作ダンスを行い、児童間による集団的な発表を通じて、表現による達成感と創造の喜びを共有させた。



【進化じゃんけんの様子】



【全児童でマイムマイムをしている時の様子】



【ひむかカードを使った表現の様子】

(3) 事後アンケートによる効果検証

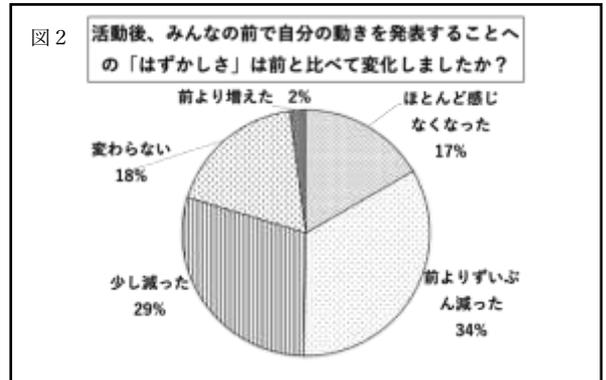
スポーツ交流会の活動終了後、「【児童】R7 スポーツ交流会についてのアンケート」を実施し、活動後の児童の意識の変容を見た。

4 結果と考察

(1) 心理的障壁の軽減効果

活動後のアンケートでは、80%の児童が「みんなの前で自分の動きを発表することへの『恥ずかしさ』が減った」と回答した。事前に56.3%が「恥ずかしさ」を苦手意識の要因としていたことを踏まえると、この軽減効果は特筆に値する。この要因は、導入の「進化じゃんけん」で緊張を解きほぐし、続く「マイムマイム」で他者との集団的な協力体験を積んだことにあると考察される。自由記述からも「恥ずかしさがなくなった。理由は、みんなと楽しくできたから」

「前と比べて何人かの友達の前で踊ることができるようになった」といった記述が最も多く寄せられ、協働体験が心理的な安全性を高めたことが裏付けられた。



(2) 他者との協働を通じた意欲の深化

「友だちから自分の動きをほめられたり、認めてもらえたりしたことで、表現運動がもっと楽しくなりましたか」という問いに対し、85.6%の児童が「とても楽しくなった・やや楽しくなった」（表1）と回答した。これは、本実践が単なる運動の機会提供に留まらず、他校交流という非日常的な場面で「承認欲求の充足」と「所属感」を創出したことを示唆する。自由記述においても「知らない人と手をつないで想像以上に楽しかった」「みんなと協力してできたからちょっとだけ好きなれた気がする」といった記述が多数見られ、他者との交流が、表現運動そのものに対する内発的な意欲の深化に直結したと考察される。

【表1】友達から自分の動きをほめられたり、認められたりして、表現運動がもっと楽しくなりましたか。

とても楽しくなった	やや楽しくなった	あまり楽しくならなかった	楽しくならなかった
31.6%	54%	11.2%	3.2%

5 まとめと今後の課題

(1) 結論

東諸県郡小学校体育連盟が行った表現運動の実践は、研究主題「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む」の達成に向け、明確な効果を上げた。特に、「恥ずかしさ」を主因とする表現運動への心理的障壁に対し、段階的な導入と集団的・協働的な活動（進化じゃんけん、マイムマイム）は極めて有効であり、他者承認を通じて表現活動の楽しさを再認識させることに成功した。

(2) 今後の課題

本研究の成果を、単年度の交流会に限定することなく、日常の体育指導へと継続・発展させていくために、以下の2点の課題が出された。

- ・ 指導内容の定着と汎用化：今回の成功要因となった指導法（恥ずかしさを軽減する導入、協働を促す活動）を、各学校の日常の体育授業へどのように応用し、定着させていくかという指導モデルの作成が求められる。
- ・ 深い自己表現への移行：集団的な表現活動による成果は得られたものの、今後は、個々の児童が「自分らしさ」を追求する創造的な表現活動へつなげ、資質・能力をより一層高めるための指導と評価の工夫が課題となる。